



神奈川県

OKAGAWA

大岡川

大岡川河川再生計画のあらまし

きれいになりつつある

大岡川の水を

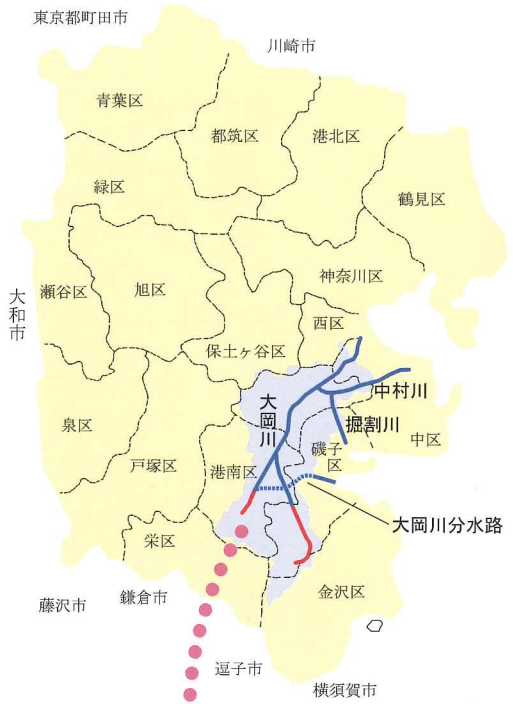
活かすために



横浜の都心部を流れる川

◎大岡川の位置

- ・大岡川水系は、市内でも最も豊富な自然が残されている鎌倉市にまたがる円海山・北鎌倉近郊緑地保全区域内の磯子区氷取沢に源を発し、途中日野川と合流し、南区・中区と市の中心部を流れ、東京湾に注ぐ流域面積35.6平方キロ、総延長28kmの横浜市を代表する河川です。
 - ・そのうち、神奈川県が管理する二級河川区間は22.7kmであり、磯子区天谷橋及び港南区日野橋より上流は準用河川（市管理）となっています。
- 現在、流域内の市街化面積は93%を占め、人口は約44万人を数えています。



◎横浜都心部を流れる川

- ・大岡川の河口部は関内・関外地区と呼ばれており、その中には神奈川県庁や横浜市役所などをはじめとする行政機関や、オフィスビルなどが多数立地しています。
 - ・関内関外地区は、多くの人々が居住する場所でもあります。近年は集合住宅の立地も多くなっています。
 - ・また、地区内や隣接地区は、みなとみらい21地区、赤レンガ倉庫、山下公園、中華街、元町、山手などの観光地としても知られています。
- 大岡川では、大岡川桜祭りや、カヌーフェスティバルなどのイベントも行われています。
- ・このように、大岡川河口部は、オフィス街・居住地・観光地など実に多様な特徴を持つ、横浜の都心部となっています。



大岡川河川再生計画とは？

◎大岡川河川再生計画の計画づくり

大岡川の河川再生計画は、河川とまちが一体となった計画づくりを目指しています。このため、計画づくりにあたっては、沿川地域と連携を十分に取らながら進められました。

現在、大岡川の水はきれいになりつつあり、様々なお祭りやイベントが開催されています。また、水に親しめる憩いの場や、災害時の拠点等の整備も進められています。

大岡川河川再生計画の基本理念

きれいになりつつある水質を活かし
沿川地域と一体的に行なう
地域の歴史・文化・生活と密接に結び付いた
大岡川の環境の整備と管理

大岡川河川再生計画の5つの目標

横浜都心を流れるきれいな水を守りたい。

演芸・祭事・歴史など大岡川にまつわる
横浜の下町文化を大切にしたい。

横浜都心の貴重なオープンスペースとして
子どもの遊び場・地域の憩いの場到大岡川を使いたい。

都心プロムナードやショッピングモールと
つながる水辺の遊歩道を歩きたい。

市民生活をまもるために大岡川の安全を確保し
防災機能としても大岡川を使いたい。



▲地域の皆さんとの意見交換会（グループインタビュー）



▲ワークショップ

大岡川河川再生計画

日ごろの河川との関わり方
今後の河川に対する期待
河川の利用や活用に対するアイデア

大岡川河川再生計画の理念と目標

大岡川河川再生計画の全体構想
①施設や環境づくり
②環境を維持保全するしくみづくり

各場所ごとの将来構想イメージ

市民参加

検討委員会


市民
学識経験者
行政

大岡川河川再生計画の範囲

◎河川再生計画の範囲

- ・大岡川河川再生計画は、おおむね右図の範囲を対象としています。(凡例参照)
大岡川は、図下の蒔田公園で、中村川と分流しており、この分流点より下流の部分で計画づくりを行いました。
- ・計画対象の河川延長は、約6.7 kmで、大岡川が約2.8 km、支流の中村川・堀割川が約3.9 kmとなっています。
- ・都心部という高密度に建築物が集まっている場所であることから、沿川の地域とも連携をとる必要があります。

凡例

-  大岡川河川再生計画計画範囲
-  主な施設
-  沿川の史跡など
-  歴史的橋梁など
-  公園緑地など
-  主な商店街



桜木町駅前



日本丸メモリアルパーク



赤レンガパーク



みなとみらい21地区



山下公園とマリントワー



中華街

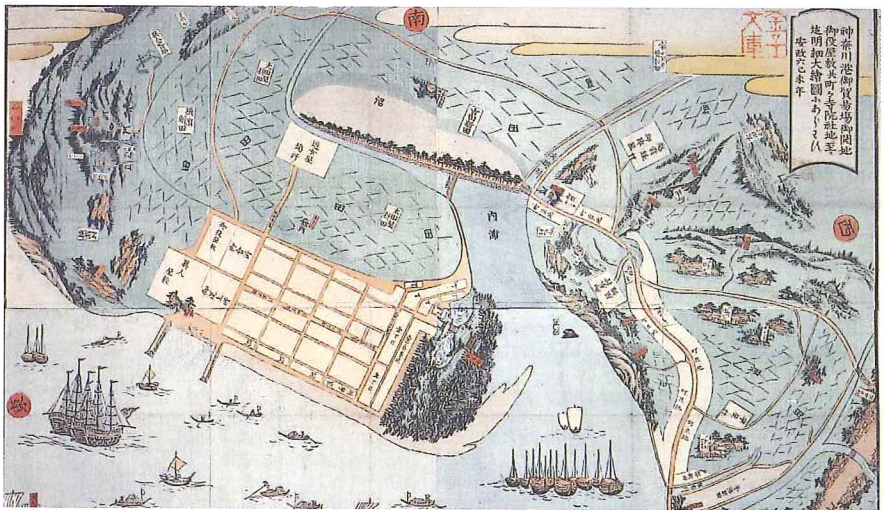


元町商店街の街並み

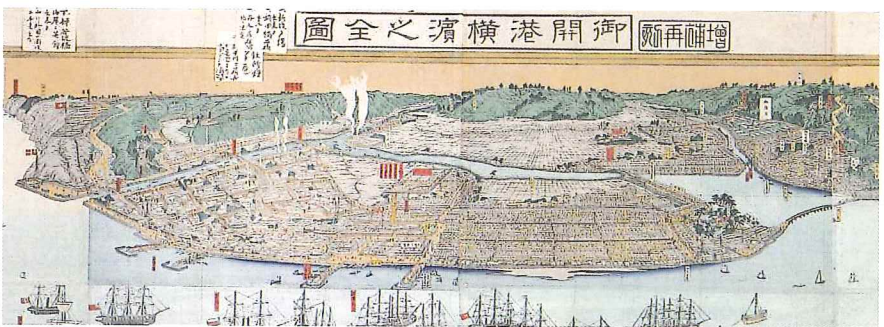
大岡川の歴史

◎新田開発と運河による物流に使われた河川

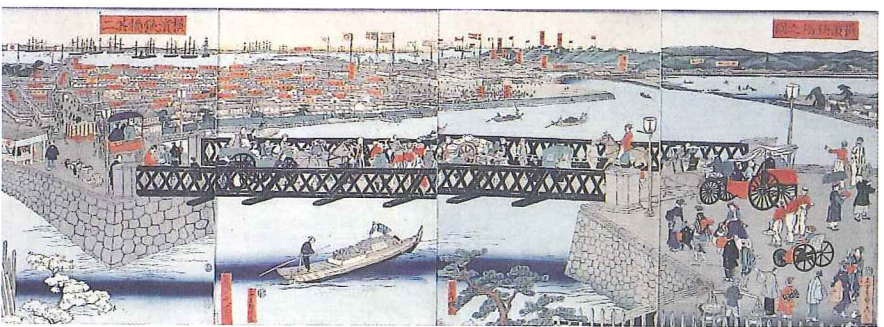
- ・大岡川・中村川に囲まれた区域は、江戸時代初めまで「洲乾（しゅうかん）の湊」と呼ばれた遠浅の入江でした。
- ・江戸の材木商の吉田勘兵衛らが、最初に伊勢佐木長者町駅付近まで新田を開発しました。その時に現在の中村川が生まれました。
- ・ペリー来航を受け、横浜は開港場となり、中村川は堀川の開削により延長され、関内地区は出島として外国人居留地となりました。
- ・明治に入り港が整備されると掘割川、吉田川、日の出川、新吉田川等の運河が次々に開削され、水上ネットワーク都市横浜がつくられました。
- ・戦後は、建築用材の運搬を主体として水運利用が盛んに行われましたが、戦後復興と共に輸送交通体系も陸運が主役となり、都心部では高度な土地利用が求められ、環境整備を目的とした公園や、地下鉄・高速道路を整備するため運河は埋めたてられその役割を終えました。



▲安政6年（1859年）開港当初の様子。現在の元町を流れる堀川はまだありません。



▲文久元年（1861年）頃の様子。堀川や派大岡川（現在の首都高速道路）がつくられました。



▲派大岡川に架かる吉田橋。明治2年に英国人技師ブライトンの設計により鉄橋がつくられました。
資料：神奈川県立歴史博物館所蔵

大岡川河川再生計画の全体構

大岡川の流れを生かし、河川再生計画の5つの目標を達成する全体構想は「施設や環境づくり」と、「大岡川を環境を維持保全

施設や環境づくり

水質浄化施設の整備や水生生物を保全します。



整備イメージ 生態系などの保全により、自然浄化機能を再生・補強して、川の水を美しく保つとともに水生生物を保全します。

右図のできるだけ多くの場所で展開します。

大岡川に関連する歴史資産を保全・活用します。



古い橋梁や護岸などの歴史資産や川沿いに点在する史跡などは、横浜を物語る大切な財産です。この財産を積極的に保全・活用することにより、魅力と個性ある川をつくりま

右図の  印の場所で展開します。

大岡川の景観整備を行ないます。




川沿いの景観を美しく整え、水面・花見・緑陰・紅葉・魚影など河川の風情を楽しみ憩う場をつくりま

右図の  印の場所で展開します。

親水施設・多目的棧橋・緊急時の荷揚場などを整備します。



子供が水と触れあいながら遊び学ぶ場所や、水上のレクリエーション活動の拠点をつくりま

右図の  印の場所で展開します。

水辺の遊歩道を整備します。



美しく魅力的に生まれ変わる大岡川により多くの人々に訪れてもらうために、水辺の遊歩道を整備します。利便性や安全性にも配慮した生活動線としても活用しま

右図の  印の場所で展開します。

大岡川の環境を維持保全するしくみづくり

- 大岡川の清掃美化活動や親水活動を行います。
- 大岡川の環境を考え、共有する場をつくりま
- 大岡川を舞台とした教育活動を行ないま
- 沿川のまちづくりに関するガイドラインをつくりま
- 大岡川の水辺や施設利用のルールをつくりま

南

藤田公園

藤田公

(ふれあい)

全体構想

達成するために、大岡川に対する「全体構想」を定めました。
を維持保全するしくみづくり」の2つから構成されます。

大岡川の魅カスポット



大岡川の屋形船



北仲通地区（大岡川夢ロード）



高架下目ノ出スタジオ（桜橋付近）



大岡川桜橋



桜まつり



黄金橋付近の湧水



蒔田公園地区（ふれあいアクアパーク）

能を再生
もに水生

いに点在
付産です。
により、

見・緑陰
憩う場を
活性化を

所や、水
ります。
できるよ

より多く
遊歩道をし
た生活

都市拠点整備		公園緑地	
商店街		歩行者動線	

しくり

蒔田公園地区
（ふれあいアクアパーク）

黄金町駅周辺地区

浦舟町・中村周辺地区

石川町駅周辺地区

元町地区

日ノ出町地区

北仲通地区
（大岡川夢ロード）

南太田駅

富士見川公園

市営地下鉄

吉野町駅

阪東橋駅

横浜橋商店街

伊勢佐木長者駅

関内駅

関内駅

横浜市役所

横浜公園
横浜スタジアム

中区役所

日本大通り駅

関内駅

神奈川県庁

山下公園

氷川丸

マリントワー

象の鼻地区

赤レンガパーク

汽車道

馬車道駅

桜木町駅

日本丸メモリアルパーク

ワールドポーターズ

日枝神社

象の鼻パーク

氷川丸

水上バス

